

書籍執筆

主に薬剤師の臨床活動をテーマとした書籍を執筆。

医師のサポートを受け誕生した書籍

・モダトレ じほう出版

執筆に参加した書籍

・薬学臨床推論 南江堂

・基本的医学知識 じほう出版

・副作用のみかた・考え方 じほう出版



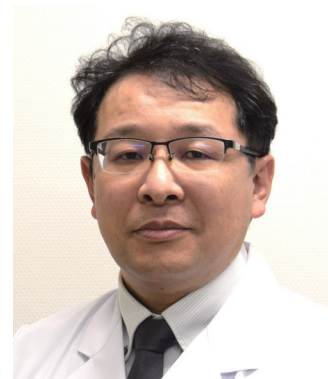
福利厚生

働き方改革を積極的に推進。

最高のパフォーマンスで業務に励むため、さまざまなカタチでの職場環境整備を行っています。2023年2月には職員食堂をグレードアップ。著名アーティストを招聘し、コンサートを行うほか、働き方改革についても積極的に推進。有給休暇の取得促進、連続した休暇の取得制度の整備など、さまざまなニーズに合わせた勤務体制を整備。また、男性の育児休暇も積極的に取得推進し、複数の取得実績があります。



大分市内の急性期病院(190床、救急車搬入:2,324件/年、院外処方発行率98% 令和4年度実績)です。薬剤師が余る時代に必要とされる薬剤師へ成長するためには、病態生理・検査値を理解した上で、症例にアプローチする技術が必要です。そして、どれだけ成長できるかは、卒後どれだけ勉強するか?に左右されます。我々と一緒に高い臨床力を持った薬剤師をめざしませんか。勉強ばかりでは疲れるので、薬剤部では全員が交代で年に1回、年末年始やゴールデンウィーク以外の時期に1週間の長期休暇を取るようになっています。



大分三愛メディカルセンター
薬剤部長 山田 雅也

お問い合わせ

社会医療法人三愛会

大分三愛メディカルセンター

薬剤部長 山田 雅也

〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地

097-541-1311

yamada@san-ai-group.org



薬剤師 業務紹介

GUIDE BOOK

臨床現場と向き合う。医療の歯車をまわすために。



大分三愛メディカルセンター薬剤部は、薬剤部内に留まらず、 さまざまな医療現場で臨床・連携業務に携わり、 「医療の歯車をまわす」存在として活躍しています。

病棟活動～臨床現場で～

当院は病棟における薬剤業務の実施加算を算定しており、病棟に常駐することで医師を含む他職種と連携したさまざまな病棟業務を行っています。病棟業務は臨床活動を中心とし、**正確な病態把握に基づく薬物治療の評価（有効性、副作用）を軸として、薬物治療のプロフェッショナルとして積極的な処方設計や提案、服薬指導を行っています。**



病棟での1日の流れ

- 8:30 朝礼、カルテ確認、退院指導の準備
- 9:00 医師・看護師と薬物治療カンファレンス（処方設計、提案等含）
- 10:00 退院指導
- 11:00 薬剤師ラウンド、服薬指導、持参薬確認
- 12:00 薬剤部内カンファレンス、調剤室業務
- 12:30 昼食、休憩
- 13:30 新規入院患者カルテ確認、持参薬確認、服薬指導
- 14:30 医師・看護師と薬物治療カンファレンス（処方設計、提案等含）
- 15:30 医師・看護師相談応需
- 16:30 薬剤師ラウンド
- 17:00 翌日の退院指導準備
- 17:30 業務終了

各診療科 医師との連携～臨床スキル向上のために～

ジェネラリスト育成に向け、各診療科医師と連携し、指導を受けやすい環境です。



＜循環器内科医による指導＞
心不全、不整脈治療薬の考え方、治療評価、フォロー、心電図、心エコーについて。

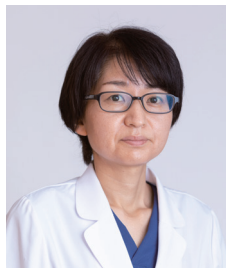


＜呼吸器内科医による指導＞
抗菌薬や呼吸器薬の考え方、治療評価、フォロー、胸部X線、CTのみかた、考え方について。

各診療科医師（例）



消化器内科 医師



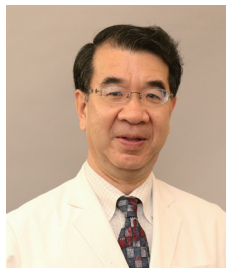
漢方外来 医師



総合診療科 医師



救急科医師



内分泌内科 医師



糖尿病内科 医師

他職種との連携～薬剤師としての業務に幅を！～

各部署との距離が近く、さまざまな場面で連携活動や各専門分野の指導を直接受けやすい環境です。

医師はもちろん、さまざまな部署との協働で、患者さま一人ひとりを総合的にバックアップします。



看護部

病棟、外来運用、医療安全など、チーム医療の中核として連携。



検査部

臨床検査技師による各種検査や心電図、グラム染色、各種培養の評価、解釈、ディスカッションなど。



栄養管理課

管理栄養士による経腸栄養、補助食品、食種、食事形態の選択、輸液製剤との連携など。

リハビリ部

転倒リスク、嚥下機能評価など、薬剤選択および治療評価についての指導。

臨床工学課

透析、人工呼吸器下など、特殊状態下での薬剤選択および治療評価についての指導。

放射線技術部

X線、CT、エコー、MRIなどの評価、解釈などの指導。

専門資格取得

日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師／4名

日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士／5名

日本薬剤師研修センター 実務実習指導薬剤師／3名

日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師／3名

日本生理学会 生理学エドゥケーター／1名

日本アンチ・ドーピング機構 公認スポーツファーマシスト／1名

大分県糖尿病療養指導士会 大分県糖尿病療法指導士／2名

日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師／1名

日本循環器学会 心不全療養指導士／1名

日本不整脈心電学会 心電図検定3級／1名

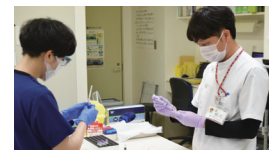
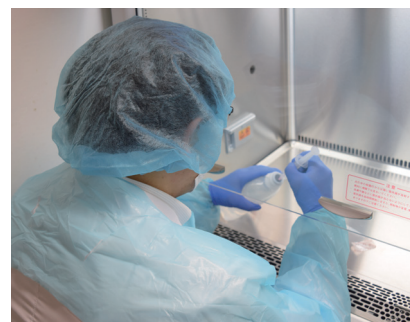
資格取得者が資格取得を支援。
医師を含む、他職種のサポートもあります。



調剤業務

“考える調剤”を。

調剤業務を作業として行うのではなく、腎機能に応じた用量検討や輸液ライン設計、正確な病態把握に基づく処方設計、ポリファーマシー対策など、薬物動態学、薬理学、製剤学を中心した薬剤師本来のスキルを活用しつつ、患者さまの病態や活動度、家庭環境などの医療背景まで考慮した医療の歯車をまわすための“考える調剤”をめざしています。



学会発表

医師からも症例を共有、添削などでバックアップ。薬学系学会だけではなく、医学系学会での発表実績があります。薬剤部内だけではなく、医局（各診療科）と症例共有や発表、論文作成指導を受けられる環境があり、これらを通じることで各診療科の薬物治療戦略や新薬の使用方針の検討等の臨床面での連携強化にもつながっています。

